

和田谷 光輝さん (石見麦酒勤務)

2014 年度 0 次隊 日系社会青年ボランティア  
派遣国：パラグアイ 職種：コミュニティ開発  
2020 年 6 月 14 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 「何でも屋」として奔走

飛行機を乗り継いで 30 時間以上、南米パラグアイは日本のほぼ反対側に位置する。2014 年 7 月、青年海外協力隊のボランティアとしてラ・コルメナというパラグアイ最古の日系移住地に赴任した。

日本人が移住して 16 年に 80 周年を迎えた歴史のある日系移住地である。日本の文化や伝統が色あせることなく残り、古き良き日本の風景を思い起こさせる穏やかで住みやすい所だ。人々は温かく家族や地域コミュニティーを大切に、皆が支え合って暮らしている。



ラ・コルメナにある日本語学校の生徒たち

現地では「地域の何でも屋」として動いた。毎週の週末市や小中学校での環境教育の実施、市と共催のイベントの準備や調整役を担うなど、地域活性化に向けさまざまに活動した。任期終了から 4 年がたとうとしている今でも、得た出会いや経験はかけがえのないものとなっている。

現在は株式会社石見麦酒（江津市）というクラフトビールやシードルの醸造所で働いている。昨年 10 月には、毎年東京であるパラグアイフェスティバルでオリジナルビールを造って販売した。収益はパラグアイの日本語学校の活動経費に使っていただく予定だ。今後もビールを通して人と人をつなげたり、地域や日本を盛り上げていく仕事ができればと思っている。

今、世界は新型コロナウイルスの影響で大きな不安の中にある。こんな時だからこそ人を思いやる気持ちをいつも以上に大切に、自分にできることから取り組み、一歩ずつ進んでいきたい。協力隊時代がそうであったように。